

TSUBASA (No.56)
つばさ56号



ふるさと
“やまなし”に
生きる子供たちの

豊かな心の育成のために

山梨県教育委員会

未来を切り拓くために

山梨県教育委員会教育長 荻野 智夫

情報通信技術の進化やグローバル化の進展等により、多様化していく社会においては、好むと好まざるとにかかわらず、多様な価値観と向き合い多様な人々と協働していく必要があります。そのような社会で、子供たちが幸せで充実した人生を歩むためには、自分のよいところに気付くこと、他者を思いやること、そして地域や社会に自ら貢献しようとする態度を身に付けることが大切な基盤になると考えます。

本県では、教育基本振興計画に掲げた「主体的に学び 他者と協働し 豊かな未来を拓くやまなしの人づくり」の基本理念の下、各教科の授業や特別活動、体験活動や学校行事など学校教育活動全体を通して、子供達が自己有用感を感じ、他者を理解し、多様性を尊重し、協力し合うことを目指して道徳教育の充実に力を入れています。

今年度の「つばさ56号」のテーマ「磨く」には、子供たち一人一人が自分のよさや可能性を磨き、他者とのつながりを深めながら、豊かな心を育ててほしいという願いが込められています。山梨の自然や文化、人との絆は、子供たちの心を育てる大切な資源です。本誌にはこうした地域の力を生かし、学校・家庭・地域が連携して「自分を大切にし、他者を尊重する心」を磨くための、推進校の貴重な実践事例が紹介されています。

「つばさ56号」が、学校・家庭・地域の皆様にとって、子供たちの心を「磨く」ためのヒントになるとともに、未来の担い手である子供たちの豊かな心の育成に資することを期待しています。

しなやかな心の育成プロジェクト

ファミ・コミ・スクール コミュニケーション

「家族」「地域」「学校」がつながり、活発なコミュニケーションをとることを推進

「家庭（ファミリー）」

家読（うちどく）推進運動
～家族みんなでお家で読書～
<社会教育課事業>



「家庭（ファミリー）」

家族で心も体も
ウォームアップ運動
<保健体育課事業>



「しなやかな心の育成」ワークショップ
<保健体育課事業>

やまなし道徳教育推進事業
「しなやかな心の育成」アクションプラン
<義務教育課事業>
「学校（スクール）」



気配り思いやり
マナーアップ運動
<高校教育課事業>
「地域（コミュニティー）」



山梨県では、児童生徒の健全な成長に関わる問題の解決に向け、自己肯定感を基盤とした<自他を敬愛する心>、困難や挫折に直面しても<諦めない心>など、子供たちの豊かな人間性を育てるために、道徳教育の学びを深め、地域全体で子供たちを育てていく環境づくりを進める取組を行っています。

「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりのポイント

○道徳科の目標を基に授業をつくる

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」*（ ）内は中学校



道徳科の目標の中に授業で何をすればよいかが示されていますね。

学習活動

- ◆道徳的諸価値を理解する
- ◆自己を見つめる
- ◆物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
- ◆自己の（人間としての）生き方についての考えを深める



道徳性を養うために育てる

*道徳的判断力

- ・善悪を判断する能力

*道徳的心情

- ・善を行うことを喜び、悪を憎む感情

*道徳の実践意欲

- ・道徳的判断力、心情を基に道徳的価値を実現しようとする意志の働き

*道徳的態度

- ・具体的な道徳的行為への身構え

○指導の意図を明確にする

指導の意図の明確化

①価値観

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明確にする

②児童生徒観

児童生徒の実態と授業者の願いから本時の授業で児童生徒に気付かせたいことや考えさせたいことを明確にする

③教材観

教材の中にある、考えさせたい道徳的価値を理解し、どのように教材を活用するかを明確にする

○ねらいを立てる

A 学習活動 + B 気付かせたい（考えさせたい）道徳的価値 + C 育みたい諸様相

教材観

児童生徒観

価値観

指導案にねらいを表記する際は、上記のような順番で書くと指導の意図が明確になりますね。



【ねらい】（例 C-13 勤労 中学校第3学年）

自分の務めとして仕事をした主人公の行動について考える活動を通して、働くことの尊さや意義についての考えを深め、生きがいのある人生を実現しようとする意欲を育む

【ねらい】（例 D-19 生命の尊さ 小学校第6学年）

登場人物に関わる人々の気持ちを考える活動を通して、生命の尊さや素晴らしさに気付き、かけがえのない生命を大切にしながら前向きに生きようとする態度を育む

「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について

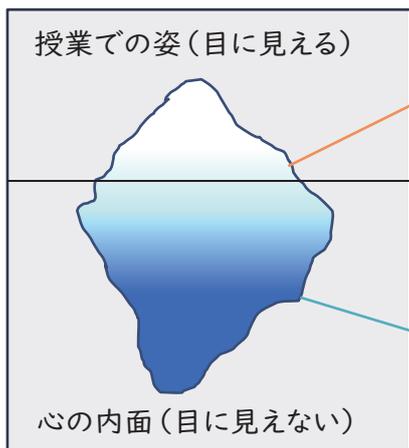
○道徳科の評価について

道徳科の評価は以下の4つがポイントとなります。

- ①道徳科の評価は**記述式**です。数値では評価しません。
- ②**個人内評価**であり、児童生徒の**成長を受け止め、認め励ますこと**が目的です。
- ③個々の内容項目ごとではなく、学期や年間などの**大きくりなまとまりで**評価します。
- ④入学者選抜の可否に活用することはありません。



○道徳科の授業で評価すること



(氷山モデル)

〈評価するもの〉

- ・目に見える道徳性につながる**学びの姿**
- 多面的・多角的な見方へ発展しているか
- 自分自身との関わりの中で深めているか

〈育成するもの〉

- ・目に見えない**内面的資質**
- *道徳科では道徳性を養うことを目指すが、目に見えない道徳性が養われたかどうかは**容易に判断できない**



授業における発言や記述等を基に「**多面的・多角的な見方ができたか**」、「**自分との関わりで考えられたか**」といった目に見える学びの姿を道徳科では評価します。

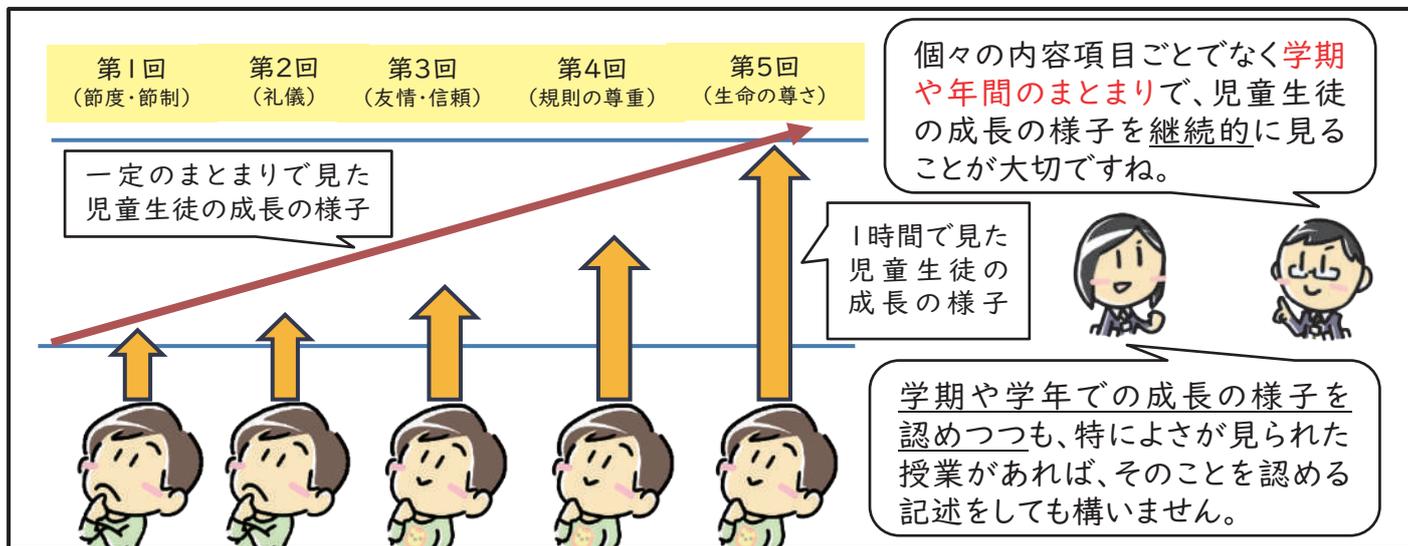
☆多面的・多角的な見方へと発展している例

- ・道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている
- ・自分と違う意見や立場を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている 等

★自分自身との関わりの中で深めている例

- ・登場人物を自分に置き換えて考えている
- ・自分を振り返り、自らの行動や考えを見つめ直している
- ・日常生活や学校生活を想起しながら考えている
- ・教材の問題点を自分事として受け止め、自分だったらどうするかという視点で考えている 等

○大きくりなまとまりでの評価



特別な支援を要する児童生徒に対する道徳教育について

○特別な支援を要する児童生徒に対する道徳科及び道徳教育の指導について(一部)

困難さの状況	考えられる手立て(例)
□読むことや書くことに困難がある	<ul style="list-style-type: none"> ●机間指導で言葉の意味等を丁寧に教える ●ICT機器の読み上げ機能や音声入力機能を活用する ●場面絵やパネルシアター、映像資料など、視覚に訴えるもので内容を提示する
□抽象的な指示の理解や時間管理に困難がある	<ul style="list-style-type: none"> ●タイマーアプリ等によって時間を可視化する ●授業前に学習の流れを示し、見通しをもてるようにする
□相手の心情を理解するのに困難がある	<ul style="list-style-type: none"> ●役割演技、動作化、劇化を実施する *どのような心情の理解を深めたいのか焦点を明確にして演じる場面を選定する
□あいまいなこと、見えないものに困難がある	<ul style="list-style-type: none"> ●心情メーターや数直線など、視覚的な手段を使って伝える
□話を最後まで聞くことや順番を守ることに困難がある	<ul style="list-style-type: none"> ●「あと5分」、「ここまでやったら」など短期的で具体的な見通しを示す ●ルールを明文化しておく ●成長が認められる行動や発言があった場合は、その都度認め、評価する

(「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)平成28年7月23日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

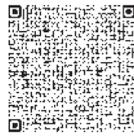
児童理解・生徒理解を深めるために

客観的理解 + 共感的理解

- ・多くの教師で児童生徒を多面的に観察する
- ・検査等の資料を基に客観的に判断する
- ・児童生徒のよさを見いだす
- ・児童生徒の心の動きを受け止める

*客観的理解と共感的理解の統合の視点が大切である

特別な支援を要する児童生徒に対する道徳教育について (独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズ)



【校内研修シリーズNo.98】
特別支援学級における
指導の在り方(理論編)



【校内研修シリーズNo.99】
特別支援学級における
指導の在り方(実践編)



【校内研修シリーズNo.135】
通常学級における指導
の在り方(理論と実践)

困っているのは児童生徒本人です。困難さに寄り添い、児童生徒に合った授業づくりを目指していきましょう。

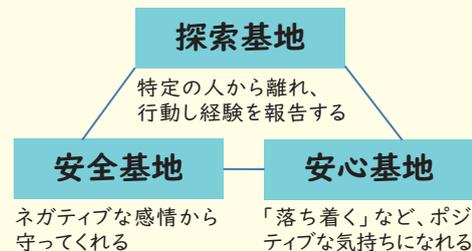


豊かな心の育成に向けて

愛着(アタッチメント)とは何か

特定の人と結ぶ、情緒的な心の絆

【愛着形成によって得られる三つの基地】



愛着形成の具体的な方法(例)

- ☆頭ごなしに言動そのものを叱るのではなく、話を聞いて気持ちを理解し受容・共感する
- ☆甘やかしすぎたり、口を出しすぎたりしない
- ☆先手の感情支援に努める(気持ちの言い当て)
- ☆「～するべき」よりも、感情支援により安心基地となる
- ☆一緒に活動し、感情の共有をする

愛着(アタッチメント)ができると

- ◇人を信頼できる
- ◇自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを理解できる
- ◇失敗から立ち直る力やストレスに打ち勝つ力が身に付く

1回あたり10秒、3日に1回の心掛けで十分です。児童生徒が「見てくれている」「大事にしてくれている」と感じられるようにいつもの接し方に少しだけ「大切に思う気持ち」を言葉で付け足しましょう。



【自殺対策基本法の一部を改正する法律】
<概要>(文部科学省)

改正に伴い、学校の責務が追加されました。



【厚生労働大臣指定法人・一般社団法人
いのちを支える自殺対策推進センターHP】

道徳教育の充実によって児童生徒の豊かな心を育む

道徳教育の主体は学校であるが、学校の道徳教育の充実を図るためには、家庭や地域社会との連携、協力が必要である。学校の道徳教育に関わる情報発信と併せて、学校の実態に応じて相互交流の場を設定することが望まれる。

学習指導要領解説 総則編 小学校 p145、中学校 p148一部抜粋

○地域社会との連携を図る取組



地域の読み聞かせ団体によるパネルシアター



地域の講師によるフラワーアレンジメント教室
→完成品は地域の施設に飾る



地域住民の協力を得て行う放課後学習・体験教室



地域団体のガイドによる歴史探訪



県内で活躍するアナウンサーを招聘した講演会



民生委員やPTAの協力を得て行う挨拶運動

○異校種・異学年との関わりや地域貢献を図る取組



スポーツ活動部による地域清掃

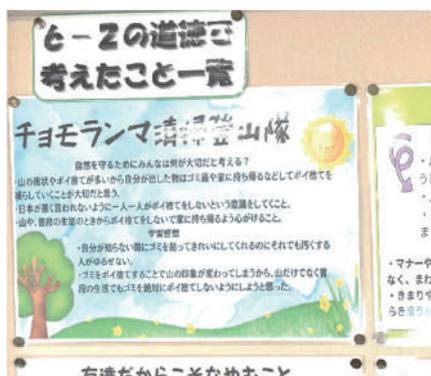


児童会・生徒会による挨拶活動



小中高連携挨拶運動

○道徳科と道徳教育のつながりを図る取組



授業内容を掲示し、学び続ける環境づくりを行う



全教育活動を通して、内容項目に関連する経験を積み重ねる

道徳でのお話

昨日の道徳で、あいさつについて考え、最後には「礼儀」について考えました。以下、1-2のみさんの考えです。

問 あいさつについて思うことは…

最初は、あいさつなんてどっちでもいいかと思ったけど、今は必要だと思って今日からは、今よりもっと明るく元気よくあいさつをしようと思った。あいさつで感謝を伝える以外にもたくさんあると思った。あいさつをするとした側もされた側も元気をもらえらると思う。あいさつできないと社会に出たときに通用しないと聞いた。あいさつは当たり前のようにできないとだめだと思う。

問 礼儀で大切なことは…

お互いの関係を認めそれを尊重すること。本当の礼儀とは相手を敬い、気持ちを表すことだと思います。その地域の文化に合わせることも大切だと思った。

学級通信を通して児童生徒のよさや道徳科での学びの様子を発信する

地域や保護者の協力を得ながら、全教育活動を通じて豊かな道徳性を育む経験を積み重ね、道徳科の授業を通して補充・深化・統合を図ることが大切ですね。



【 校内研究を磨く × 授業を磨く 】 ～「考え、議論する道徳」の実現に向けて～

これまでの「校内研究」って…

自分の授業に落とし込めない…
沈黙が続く校内研究会…
研究授業者だけ頑張ってしまう…

これまでの道徳の「授業」って…

終末は時間が足りず感想を書くだけ…
朱書き教科書のとおり…
発問ってどうやってつくる？…

「考え、議論する道徳」の実現に向けて、まずは「校内研究」や「授業」を磨いていこう

「校内研究」を磨く

～自分事として考え、学び、対話を重視した参加型研究～



道徳の基礎から学ぶ
全員が基礎を学び、同じ土台に立って、研究を進める



指導主事とも学ぶ
外部からの指導助言を受けて、授業に向き合い続ける



「対話」の積み重ね
自分だったらを大切に、対話で考え、議論する



「全員」で組織的研究
ベテランも若手も、それぞれの視点や考えを大切に

「授業」を磨く

～「考え、議論する道徳」の実現に向けて「全員」でつくる授業～

5年【善悪の判断、自律、自由と責任】		4年【規則の尊重】		1年【友情、信頼】	
<p>自由な対話と議論</p>		<p>「心の信号機」で立場を可視化</p>		<p>役割演技で心情の変化を考える</p>	
<p>構造的な板書による思考の整理</p>		<p>道徳的価値について深める議論</p>		<p>自分の考えや思いを伝える</p>	
<p>「自由」と「自分勝手」の違いについて考え、「本当の自由とは何か」に迫る</p>		<p>「心の信号機」で自分の立場を示し、議論を通して道徳的価値に迫る</p>		<p>役割演技を通して登場人物の心情の変容をつかむ</p>	
学習指導案	授業のポイント動画	学習指導案	授業のポイント動画	学習指導案	授業のポイント動画

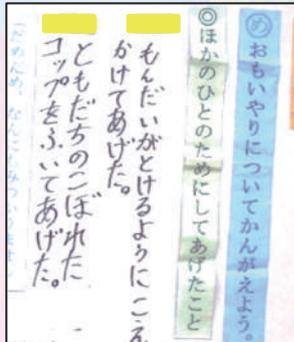
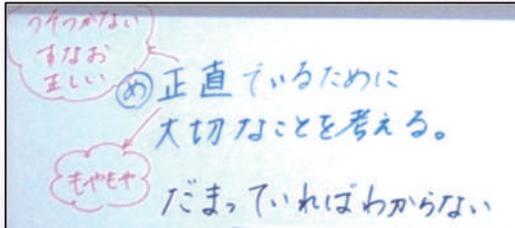
※「学習指導案」、「授業のポイント動画」の掲載については、推進校事業の指定期間までとします。ご了承ください。

発問と導入を中心に授業構成力を磨く

「自己の生き方を見つめられる」導入の工夫

価値に迫る導入

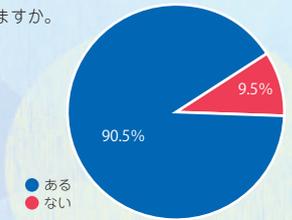
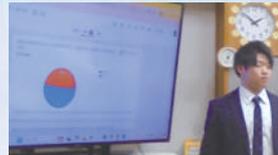
内容項目と自分の生活をつなげて考える



事前アンケート

自分自身の生活について振り返ることで、よりよく生きるために考える必然性を生む

つい正直でいらなかったことはありますか。
21件の回答



「自己の生き方を見つめられる」発問の工夫

講演会より(講師:※浅見哲也氏)

- ・発問の目的と組み立て方
- ・道徳科の学習のイメージとは

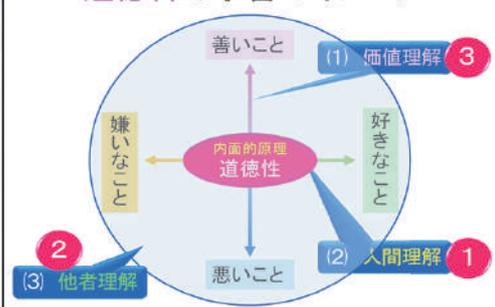
問い返し

- ・当事者意識をもち、思考を深められるよう揺さぶる
- ・多面的・多角的に考える
- ・価値理解を「自己の生き方」とつなげて深める

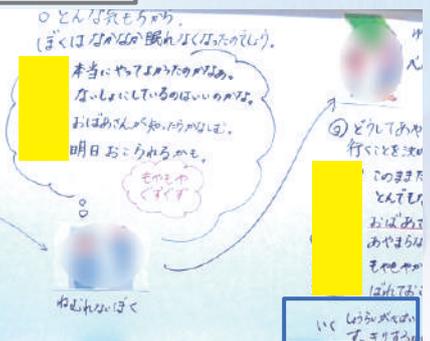
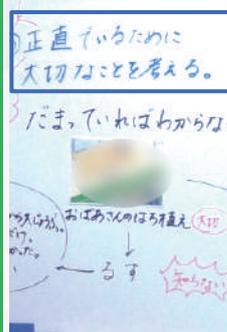
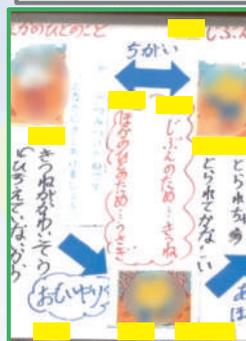


授業実践動画(第4学年)

道徳科の学習のイメージ



※浅見哲也氏・・・十文字学園女子大学教授



連携した道徳的実践活動で児童の道徳性を磨く

学校

- ・児童会活動
- ・委員会活動
- ・小中高連携挨拶運動
- ・秋空コンサート
- ・芸術鑑賞教室
- ・道徳授業公開

保護者

教職員・保護者・地域の方による読み聞かせ

縦割り活動(ゲーム集会等)

地域

- ・ボランティア感謝の会
- ・クラブ活動(コミュニティ・スクール)

教育委員会等



親子活動(救急救命法、SNS学習会、工作等)



児童会主導で地域の方と連携ごみ拾い集会

- ・昭和町教育委員会生涯学習課
- ・昭和町町民会議等、町の組織との連携

「課題に気付き、主体的に活動する生徒の育成」
～ 個別最適・協働的な学びを通して～

(1) 教材研究の工夫や時間配分の工夫で授業力を磨く



ペア研究

- ・ 空き時間や放課後にペアで協議を重ね、発問を磨く
- ・ ローテーション道徳の実施する



I C T機器の活用

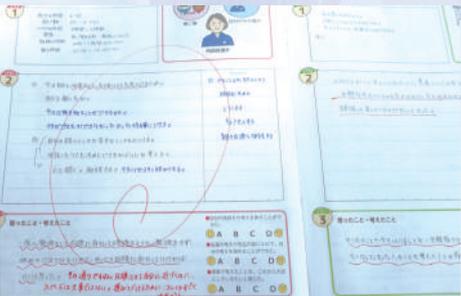
- ・ 全体共有の場面で活用し、より多くの意見に触れる機会をつくる
- ・ それぞれの考えの可視化する



対話を重視した授業づくり

- ・ 考え方の違いに気付き、比較して自己の考えを深められるように対話の時間を意図的に設定する

(2) 評価や振り返りの工夫で授業力を磨く



道徳ノートの活用

- ・ 自己の学びの足跡を蓄積することで成長を実感できる
- ・ 生徒の学習状況を把握する



道徳ノートを活用した評価

- ・ 生徒の成長を継続的に見取る
- ・ 生徒の記述から教師の授業改善につなげる



板書の掲示

- ・ 教師、生徒が共に授業の振り返りを行う
- ・ 板書を見合い授業力向上を図る

(3) 講演会や地域との連携によって実践意欲を磨く



講演会の実施

※山本晴美氏の講演を聞いて平和について全校で考える。



福祉まつりボランティア

地域の人とのつながりの大切さを感じる。また、地域の方から郷土の歴史や出展作品について学び、地域の伝統を理解し、郷土愛を育む。



教育活動全体を通じた道徳教育の視点を磨く

市川三郷町が推進する「みさと学」(ふるさとキャリア教育)。職場見学や職場体験も町の企業や商工会の全面的な協力をいただき実施している。1学年が行う職場見学では、新商品の企画に取り組み、企業に提案したり町役場に掲示したりしている。この取組に寄せられる感想を基に、「郷土の伝統と文化」「郷土を愛する態度」に関わる道徳授業を行った。



問
みさとの町の皆さんが
きびしいアドバイスを
くれたのは
私たちにどんな気持ちを
こめたのでしょうか？

取組の流れ

- ①商品開発の現場に学ぶ
- ②商品企画提案
- ③町役場に掲示
- ④町の方々の声を基に考える

2学年で行う宿泊学習や職場体験に、「町や地域の魅力」「地域への愛や感謝」という視点をつないでいく

取組を通して出た生徒の感想

- ・厳しいアドバイスは悲しかったけれど、自分のアイデアにはまだ伸びしろがあるんだ
- ・もっと町の魅力を知りたい
- ・町の方々に私たちの取組を見てもらえて嬉しい
- ・アドバイスをもらえてありがたい
- ・町の皆さんのアドバイスに応えたい
- ・私たちは町の皆さんから応援され期待されているんだ
- ・町に誇りをもって生活したい
- ・未来を託されているんだ
- ・町の皆さんが愛をもって私たちのことを考えてくれている
- ・向上することをやめないことが大切なんだ

「自分事として考える授業」 授業・校内研究を磨く

外部講師による教師への模擬授業



筑波大学附属小学校教諭 加藤宣行氏による模擬授業



教職員全員が模擬授業を受講し、実践力を磨く

地域の方々と共に進める 道徳教育を磨く

30年以上の歴史をもつ「学校・家庭・地域連携推進協議会」が中心となり、生徒の心身の豊かな成長を願い、各種の取組を展開している。生徒も主体的に参画し、望ましい自己の形成につながっている。(構成団体は社会教育委員、民生・児童委員、主任児童委員、シニアクラブ、保護司会、公民館など14団体)

地域の方と意見交換



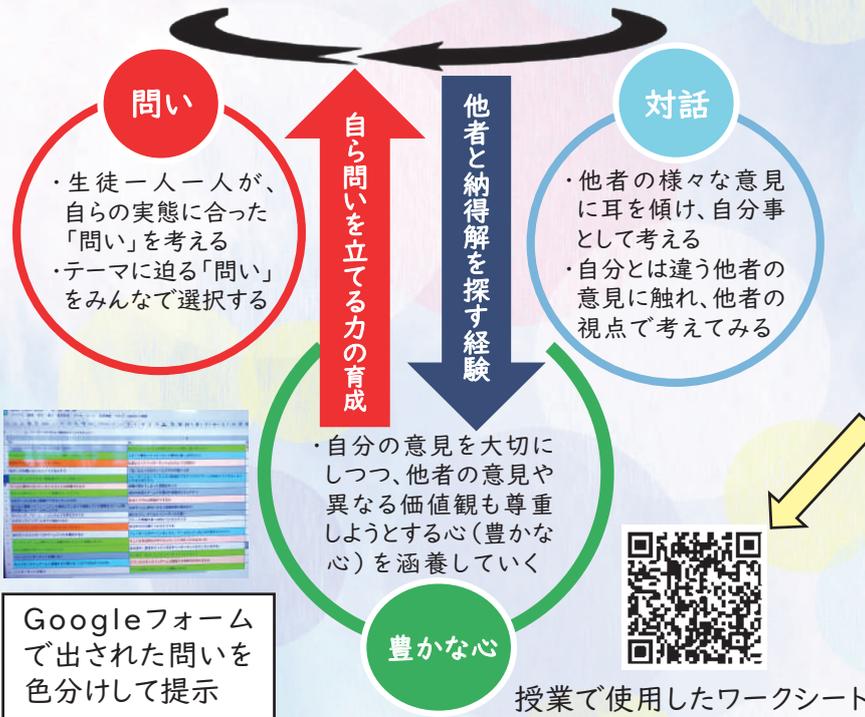
地域の方と清掃、花植え



研究主題

『自他ともに大切にし、豊かな心をもった生徒の育成』

～ 「生徒の問い」 から生まれる 「対話する道徳」 の実践を通して ～



今日のテーマ: _____

組 番 氏名 _____

話し合いのルール	話し合いのやり方
① お互いの顔が見えるかたちにする。 ② どのような意見もアームに関連している限りは、尊重する。 ③ 人の言うことに否定的な態度は取らない。 ④ お互いに質問する。 ⑤ 自分の経験をもとに話す。 ⑥ 話がまとまらなくても、意見が違ってもよい。 ⑦ 沈黙も大切にする。	① ペンを持っている人だけが、自分の考えを話したり、質問したりします。(あいづちはOK) ② マイクを持っている人は話し終わったら、次に話す人を選んでマイクを渡します。 ③ 話したい人、質問したい人は手を挙げて、マイクを受け取ります。 ④ 3回までパスをすることができます。

ルール **話し合い方**

1. 話を読んで今日のテーマに沿った、自分の「問い」をたててみましょう。

気になった部分

問い _____

問いの設定

みんなで話し合う「問い」:

2. 「問い」についての自分の考えを書きましょう。

自分の考え _____

(あれば) その理由 _____

自分の考えをまとめる

3. まとめた問い「 _____ 」への考えを書きましょう。

自分の考え _____

問いの深掘り

生徒が自ら「問い」を立てるための手立て

- Googleフォームの活用、ワークシートの工夫
- 事前に資料を読むなど、授業時間を生む工夫
- 問いや対話の軸となる本時のテーマを示す

生徒が「問い」を選ぶための手立て

- 「テーマに迫れる問いはどれか」という視点で問いを選べるようにする
- 板書やホワイトボードを活用し、生徒の問いに立ち返ることができるようにする

生徒の「問い」を生かすための手立て

- 教師が問い返しを行い、生徒に自分事として考えられるよう促す
- 授業で取り上げられなかった問いの中から、自分が更に関心をもった問いについて考える場を設ける

本年度の成果と課題

- 授業を繰り返すことで生徒の「問いを立てる力」「問いを選ぶ力」が高まってきている。生徒が実態に合わせて問いを立てるので、生徒が自分事として捉えられる授業が行えるようになってきた。
- 実践と研究を繰り返し、問いを立てるための手立てを模索してきた。また、生徒の実態に合わせた担任による工夫が見られるようになった。
- 今後は対話により自らの考えを深め、他者と納得解を探そうとする場面を増やしていきたい。

実践例 1年B組(題材名:仏の銀蔵)

- お天道様とはどのようなものだろう
- 誰が不思議な手紙を届けたのだろうか
- どうして銀蔵は高い利子をとらなくなったのだろうか
- なぜ証文がないのにお金を返したのか

生徒が選び、考えた「問い」

なぜ証文がないのにお金を返したのか?

生徒が対話する様子



- 教師と生徒、生徒同士で問い返しを行い学びを深める
- 多様な考えに触れ、自分の考えの根拠を見付けたり意見を変えたりする

授業風景はこちらから

授業動画のQRコードに関しては、本誌のみの掲載とさせていただきます。

「命の教育」を通じて大切な自分を知る

身近な人と関わる中、自己主張のぶつかり合いや葛藤することで、それぞれの違いや多様性を尊重する感性が育っています。子どもなりの善悪の基準や決まりの大切さを知るには、遊びを中心とした体験と、大人の対応や援助が大切になるため、自己肯定感を高め“大切な存在である自分”を感じる経験を重ねています。

「挨拶は自分から」コミュニケーションの第一歩

毎日聞こえる元気な挨拶



挨拶は、自分から「おはようございます。」「ありがとう。」いつでも、どこでも、誰とでも、相手の目を見て元気よくしています。

「Noと言える大切さ」プライベートゾーン

恥ずかしい・苦手・嫌な気持ちを伝えることは悪くない!



プライベートゾーンでなに?

いかのおすし体操

「いかのおすし体操」で連れ去りへの対処「イヤ!」「助けて!」など、困った時に大きな声を出すことの大切さを体操しながら知りました。

「こんな時どうするの?」命を守る行動

地震防災訓練



災害に対する心構えやとっさの行動について体験します。



「命はひとつ!ゲームみたいにリセットはできないよ。」ルールを守る大切さを学びました。

「交流の輪」いろいろな人と触れ合う

おじいちゃん、おばあちゃんに喜んでもらえて嬉しい!80歳差との交流がお互いの笑顔や元気の源になりました。



「子どもたちから元気をもらえる。」

遊びや生活の中で他者の存在に気づき、相手を尊重する気持ちを持ち、行動できるようになるには、周囲との信頼関係の構築が重要です。家庭・地域社会・幼稚園が連携して情報を共有し、子ども一人ひとりが大切にされる環境づくりをすることで「命の教育」につなげていきたいと思ひます。

生徒の自己肯定感及び自己有用感を高め、 社会性や人間関係形成能力を育む指導の在り方

●本校の概要

本校は、県内18市町村から多様な地域的・教育的背景等を有する生徒が在籍し、それぞれ普通科・工業科（機械・電子・制御・環境）・英語理数科の各学科において専門的な学びに取り組んでいる。また、本校に集う多様な他者の個性やよさを尊重する姿勢や、地域や社会に貢献できる資質・能力を養うべく様々な経験を積み重ねている。

●研究概要

これまでの道徳教育に関わる本校の取組について、活動に参加した生徒の意識の変容や行動の変化等に注目して検証を行うとともに、高等学校における道徳教育に資する諸活動について、地域や関係機関との協働の在り方に関する研究も含め、効果的に生徒の自己肯定感及び自己有用感を高め、諸問題の未然防止及び安全・安心な高校生活と豊かな学びの保障につなげるべく研究を行っている。

●道徳的実践活動の紹介

【被災地への支援】



10月に1～3年生の有志10名が石川県輪島市を訪問（2泊3日）し、現地のNPO法人「まるごみ輪島」とともに運搬ボランティア等に従事。また、輪島高校の生徒と防災をテーマとした交流会を実施。

【ユニセフ・キャラバン】



県では1989年以降11回目となる「ユニセフ教室」を実施。紛争や気候変動など世界の子供たちが直面する課題について、「子どもの権利条約」や「SDGs」にも触れながら体験的に学びを実施。

【被災ボランティアスクール】



市社会福祉協議会・谷村地域協働のまちづくり推進会との共催で、地域防災の主体者としての人材育成を目的に、搬送訓練・聴覚障害・高齢者理解、防災食体験等の実技及び講演会を毎年実施。

【各学科・部活動による取組】

【親子ふれあい体験教室】（工業科）



【中学校へへの出前授業】（工業科）



【小学校外国語コミュニケーション講座】（英語理数科）

【外国人観光客向けボランティアガイド】（英語理数科）



他者と共によりよく生きるための基盤を磨く

～教育活動全体を通して～

本校は、昭和54年に開校した、小・中・高等部を設置する知的障害、肢体不自由、病弱（高等部のみ）の児童生徒を対象とした特別支援学校で、自然にあふれた場所にある。本年度は、小学部20名、中学部11名、高等部24名の児童生徒が在籍している。道徳教育全体計画の各学部の重点目標を達成するため、高等部では道徳の授業を中心に、小・中学部は教育活動全体の中で、指導に取り組んでいる。

小学部～思いやりの心を磨く～

「約束やきまりを守るとともに、学校の人々に親しみ、学級や学部の人々の生活を楽しむ」という重点目標の取組では、昼休みの中庭で、遊具の順番を並んで待ったり、「かして」「いいよ」と声を掛け合ったりと、時には教師が間に入りながら友達と仲よく関われるよう支援している。こうした経験を積み重ねる中で、上級生が下級生に優しく接する姿が見られ、お互いを意識し、思いやる心が広がっている。



すべり台は並んで順番に滑る

「一緒に遊ぼう」と声を掛け、チームに分かれて遊んでいる



中学部～役割を果たそうとする心を磨く～

重点目標である「社会のきまりの意義を知り、自ら判断する。また、学級や学部の一員として役割を自覚して生活しようとする。」を達成するため、日常生活の指導に力を入れている。係の仕事や清掃活動では、生徒の実態に合わせて「自分の役割を理解し、習慣化する」「自分のことは自分で行う」「最後まで責任をもって取り組む」といった目標を設定している。

こうした実践を通して、日々の学校生活の中で、役割を果たすことの大切を学んでいる。



みんなのために給食で使うストローを準備する

給食後は、係の生徒たちが協力して片付けを行う



高等部～自分らしく表現する・他者を認める力を磨く～ 授業「働かってどんなこと」の一場面より



① Teamsのクラスノートブックを活用し、自分の考えを伝える



② 友達の考えに対して、自分の感想を絵カード（賛成・なるほど・新しい発見）を使って伝える



③ 職種の違う「働く人の気持ち」を考えたワークシートを見合せて「いいなあ」と思う考えに○を付けて、相手の考えを認める

道徳の授業の中で、「仕事をするときに、大切にしたい気持ち」を考えた。職業の授業で、生徒が作成した工芸品を地域に向けて販売したり、校内に設置しているカフェで接客したりする活動では、大切にしたい気持ちをもちながら行っている様子が見られた。

美味しいコーヒーを飲んでお客様に喜んでほしいなあ。



お客様が見やすく、取りやすいようにしましょう。

しなやかな心の育成講演会

様々な分野で活躍する地域の方を派遣し、児童生徒のしなやかな心を育成するために講演会、学習会を実施しています。

令和7年度実施例

講演題

「戦後80年 世界と日本の子ども兵士」

○国内外で活躍する記者を招聘し、子ども兵士の話から平和の大切さについて考えさせられる機会となった。平和のためにできることを考えるワークショップもあり、児童が自分事として平和について考える講演会となった。

講演題

「親子の絆の大切さ」

○県内の公認心理師を招聘し、児童や我が子の様子について、具体的な問題行動の例とその対応について学んだ。特に愛着障害を抱える児童の様子を取り上げていただき、愛着形成や愛着の大切さについて考えられる講演会となった。

講演題

「夢の挑戦と働くこと」

○県内のスーパーの社長を招聘し、経営方針や実績から困難に直面してもあきらめない心について学んだり、人との関わり方や接し方について学んだりするなど多様な価値に気付く機会となった。今後の職業体験にも生きる講演会となった。

講演題

「地元で働くことの大切さ」

○地元で活躍するNPO法人の職員を招聘し、地元の魅力や地元で働くことのよさについて学ぶ機会となった。「働くこと」は人生を楽しむ一つの方法であることや地元に戻る意義を学ぶことで、自分の生き方を考える講演会となった。

あしがき

委員長 内藤 雅人

外国からの旅行客の急増とともに、外国の人から見た日本の印象が様々な場面で紹介されるようになってきました。ルールやマナーを大事にする日本人の姿勢が賞賛されていますが、これは我が国における道德教育の成果であると思います。

さて、現行学習指導要領においては「主体的・対話的で深い学び」が標榜されていますが、道德科においては「考え、議論する道德」と言い換えることができます。道德的価値を自分との関わりで捉え、多面的・多角的に考えることにより自分を見つめ他者理解を深め、共によりよく生きていくための道德性を養えるような授業づくりが求められているところです。

「つばさ56号」においては、県教育委員会の指定を受けた研究推進校の実践を紹介するとともに、授業改善や学級経営に役立つ資料を教員に限らず、どなたにも見ていただけるよう工夫しています。多くの方に山梨県の道德教育の現状を知っていただき家庭・地域・学校が一体となった取組が更に充実していくことを願っています。

道德教育推進会議

◎委員長

○副委員長

◎内藤 雅人	推進会議委員長	○永田 真吾	山梨大学	一瀬 英史	チーフスクールカウンセラー
穴水洋一郎	富士幼稚園	相山 恭子	山梨県PTA協議会	飯塚 健二	山梨県高等学校PTA連合会
青木 央	大国小学校	佐野 良	常永小学校	樋口 友喜	一宮中学校
村松 章史	市川中学校	長谷川英信	上野原中学校	加藤 忍	双葉中学校
石井 明	都留興譲館高校	杉本美恵子	やまびこ支援学校	山田 睦子	甲府市教育委員会
向山 明見	社会教育課	志村貴美子	総合教育センター	村松 賢志	峡東教育事務所
有泉 武士	中北教育事務所	池川 良樹	峡南教育事務所	原田 弘昭	富士・東部教育事務所

(敬称略)

つばさについて

「つばさ」バックナンバー



No.50
道徳科に生かす指導方法の工夫



No.51
「主体的・対話的で深い学びについて」



No.52
道徳の授業づくりについて



No.53
道徳の評価について



No.54
「つながる」道徳教育



No.55
「深める」道徳教育



「つばさ」の由来

心身共に立派に育って、大空に巣立ってもらいたいという願いが込められています。

昭和57年度
(創刊号)

心の健康推進だよりとして、「つばさ」が創刊された

平成15年度
(第35号)
まで

いじめや登校拒否（現：不登校）、薬物乱用（シンナー等）校内暴力等の課題への対応や家庭・地域・学校の連携の在り方等について発信される

平成16年度
(第36号)

これまでの心の健康推進から道徳教育を中心とした内容になる

平成27年度
(第47号)

学校教育法施行規則の改正を受け、「特別の教科 道徳」実施に関する内容が中心となる

平成30年度
(第50号)

「つばさ」50号発行



TSUBASA (No.56)

つばさ56号

令和8年3月

問い合わせ先

山梨県教育委員会

義務教育課 TEL 055-223-1764

高校教育課 TEL 055-223-1766

特別支援教育・児童生徒支援課

TEL 055-223-1752